

シマムセンオーディオ試聴会 (2025.5.10)

—SAEC 製品—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された SAEC 製品試聴会に行ってきました。

2. 開催要項と使用機器

開催要項は下記のとおりで、5月10日(土) 13:00~14:30 のプログラムに参加しました。

SAEC 製品試聴会
5月10日(土)

SAEC50周年記念モデルの新製品トーンアーム「WE-709」と新製品MCカートリッジ「XC-11」を試聴いただきます。
グラントスタビライザー「SGS-042」や電源タップ、各種ケーブルといったSAECのアクセサリーの効果を体験いただきます。
スピーカーには、2024年4月より取り扱いをはじめた HarbethのSuper HL-5 plus XDを使用し、SAECのご提案するサウンドをトータルでご体感いただく試聴会を予定しております。

〈日程〉 5月10日(土) ①13:00-14:30
②15:00-16:30

〈会場〉 ホリノビル 2階 **CYMA**
(大阪市浪速区日本橋4-5-20)

〈ご予約方法〉
シマムセンHPIにてご予約受付中

HP
shimamusen.co.jp
電話番号
06-6632-2854 (イベント担当係)

イベント情報はこちら/
QRコード

スケジュールと使用機器は以下のとおりです。

～SAEC アクセサリー各種製品で変わる音質体験+Harbeth スピーカー～

[日時] 2025年5月10日(土)

第一部 13:00~14:30

第二部 15:00~16:30

[使用機材]	(メーカー / 機種)	(税込み定価)
[プリメインアンプ]	Luxman / L-509Z	(¥990,000)
[SACD/CD プレーヤー]	Luxman / D-X	(¥1,430,000)
[アナログプレーヤー]	Luxman / PD-191A	(¥990,000)
[フォノイコライザー]	Phasemation / EA-550	(¥748,000)
[トーンアーム]	SAEC / WE-709	(¥825,000)
[カートリッジ]	SAEC / XC-11	(¥528,000)

[スピーカー]	Harbeth / super HL-5 plus XD	(¥1,210,000/ペア)
[スピーカースタンド]	Harbeth / HSS-5	(¥79,200/ペア)
[グランドスタビライザー]	SAEC / SGC-200	(¥396,000)
	SAEC / SGC-042Mk II	(¥242,000)
[電源タップ]	SAEC / TapCute6 Mk II	(¥71,500)
[電源ケーブル]	SAEC / PL-9000	(¥168,300)
	SAEC / PL-7500	(¥115,000)

会場 CYMA Event Room (シマムセン別館 2 F)

講師 メーカー担当者

内容

SAEC 創立 50 周年記念モデルの新製品トーンアーム「WE-709」と新製品 MC カートリッジ「XC-11」との組み合わせで、W ナイフエッジによる高音質サウンドを体感いただきます。

SAEC の高性能グランドスタビライザー「SGS-042」をフォノイコライザーや SACD/CD プレーヤーなどに接続し、その効果を体感いただきます。SAEC が 2024 年より取り扱いをはじめた Harbeth のスピーカーを使用し、様々な音楽ソフトを通じて、BBC モニターの系譜を担う Harbeth の魅力を体感いただきます。是非この機会にご参加ご試聴くださいませ。

3. 試聴会の経過

5 月 10 日(土)の第一部に参加しました。



当日のセッティング

構成は 4 つに分かれ、最初は電源タップと電源ケーブル、次はグランドスタビライザーと称する仮想アース、次いでアナログシステムと最後はスピーカーという順です。

最初は CD のフュージョンで、電源タップを、次いで電源ケーブルの高い方をアンプと CD に、最後はすべてを投入という順で試聴が行われましたが、この程度かという印象です。

次に Hol Coll のボーカルで電源タップと安い方の電源ケーブルをセットして試聴が行われましたが、確かにクリアな音ですが、価格を考えるとこの程度かという印象です。仮想アースは、SGC-042Mk II を使用し、ショルティ指揮ウィーンフィルのヴェルディのレクイエムで、SACD/CD プレーヤーのアース端子、ついでスピーカーのマイナス端子に接続していましたが、ともに喧しさが取れ、オーケストラや合唱の分離、打楽器などの明晰さがでてきます。

次はジャズで仮想アースは、SGC-042Mk II と SGC-200 の比較でしたが、前者の切れの良さに加えて、後者はより音像がリアルになりました。

これらは確かに魅力的な存在ですが、価格を考えるとコストパフォーマンスでは難しいところがあります。

ここからは、アナログ再生に移り、アームとカートリッジの詳しい説明があった後、SGC-200 はフォノイコとスピーカーにセットし、ロックとジャズの盤がかかりましたが、切れの良さと解像度の良さは感じられ、スピーカーの説明があった後、最後は女性ボーカルで締めくくりました。

4. まとめ

全体としては選曲がスピーカーの特性とマッチせず、スピーカーを活かしきれないデモとなりました。もっとクラシックのしっとりとした曲なら正確な評価ができたかと思えます。SAEC の音質の目標は切れの良さと解像度の向上を目指していることは、解説どおりその音に具現化されていることは確認できました。

電源タップと電源ケーブルについては振動と静電気対策を行っているとのことでしたが、技術的な背景の説明はなく、仮想アースについては電磁波と磁界対策を行っているとのことでしたが、これも技術的な背景の説明はありませんでした。

アナログに関してはイコライザー特性や位相への関心はないようでした。

以上